

松葉屋通信

matubaya-tushin
vol.13 2010.3.8

ひとよ、明けたら、

春になっていました。

もうそろそろ、寒い毎日も、

もうそろそろ、おしまいにしませうよ。

と、思っていたころでした。

小鳥が、びっくりするくらい、

元気になっています。

「梅も咲きました。」

ラジオからも、

聞こえてきます。

春なので、

あたらしいことをはじめましょう。

好きなことや、

大切なことの再発見。

いつのまにか、

山積みになっていた本たち、

出番ですよ。

松葉屋では、この本たちを気軽に楽しんで

もらえる場所を作りました。

おうち図書館「まつの文庫」の、

開館です。

おうち図書館

まつの文庫

はじまります。



冬に見つけた「おうち図書館」に、名前をつけて、

まつの は 文庫

になりました。

準備から開館までのようすをお知らせします。



まだ少し空っとしている本棚

「この冬、善五郎さんは北へと納品にでかけました。その帰り道「おうち図書館」のアイデアを出会ってしまったのです。どんな本でも揃って、つてわけじゃないけれど、「その家らしい顔をしたら本たちが作り出す、個性的で心地よい空間」を共有する。

「すこく楽しそう、やってみたい！」

と、急いで帰った善五郎さんは、すぐに準備に取りかかりました。



まずは、家のあちこち、店内のどこどころにある本たちを集めてみます。狭く間に山積み、時々手を止めて見入ってしまい、時間も瞬く間に過ぎてゆきます。

本って不思議、何度も開いているのに、まだまだ見逃していたことの多いこと！驚いたり納得したり、心が動きます。

そして次は本棚作り(台板に白ペンキですが、少しずつ大きさの違う箱を重ねて、もう表情が出てきて、

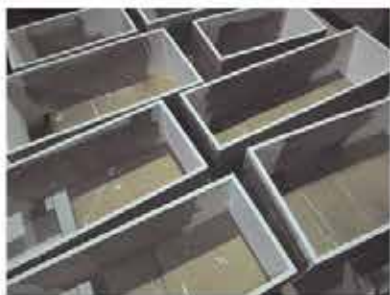
「たぐさんの人たちに読んでもらって、これだったら家の本棚に居るよりもしあわせな本になる。」

と、なんだか嬉しくなったりして、「まつのは文庫」は図書館なので本の貸出しもします。

貸出票も作りました、いちとお立寄りください。「まつのは文庫」の本たちもドキドキしながら待っています。



ペンキ塗りたて本棚を並べてみました。



本の通い袋
貸出し会員になっていただいた方に差し上げています

✦ 奥の棚にあるのは
休刊中のインテリア
雑誌「室内」です。
✦ 名著復刊の小川未
晴や野口雨情など、
うつくしい日本語を
楽しみたい本です。



表具店という性格上、多いのはインテリア関係ですが、やはり松屋のフィルターで選別された本になっているのです。ひとところに集めてみるとあらためて感じる、そんなところも面白い。

40年の歴史を持つインテリア雑誌の半分は「室内」、雑念ながら休刊となってしまいましたが、記事や編集方針に高い信頼性を感じていました。このパンクナンバーも松屋屋の自慢です。

くりかえしくりかえし、夏をめくるたびにワクワクする、大切な本「ひかりのくに」。



おうち図書館

まつのは文庫

本たちの顔ぶれ

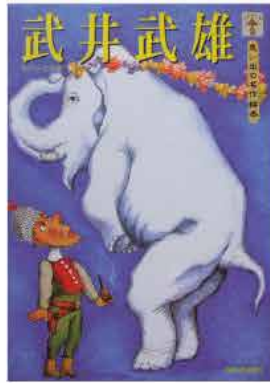
- ジェイコムズ・B・ランシング物語
- いいものはいいもの
- 美しい椅子が分かる本
- 誰人しごとの日本 2
- 持たない暮らし
- 椅子の研究 | 座ることの文化的な意味
- Design Book-Two
- AMERICA FURNITURE 1620 to the present
- 木の道具
- 気持ちいい道具と暮らしたい
- ハンスウェグナーの椅子100
- 住宅汚染
- 無添加住宅
- デザインの系
- 美しい椅子
- 電動工具の使い方
- architecture from SCANDINAVIA
- トーネット曲木家具
- 椅子のデザイン小史
- 「環境設計の手引」ボタン・ランゲージ
- 「室内」40年
- 木の文化
- 怪獣怪人大全集 ゴジラ2
- 難波和彦「箱」の構築
- 天然生活
- 村上ラヂオ
- 紙ストローカタログ
- 暮らしの手帖 別冊
- 住む(SUMU)
- イラン イスラム共和国
- 日本のラベル
- インドの染織
- のしめ (野4目) 江戸時代の緋・格子・紺
- 夜のみもざる
- 泉工場のハッピーエンド
- 谷川俊太郎詩集
- ジョン・レノン 祝福
- 雑貨探しノート
- センセイの朝
- スタンブダイアリー
- 南仏プロヴァンスの家庭料理ノート
- お茶のしあわせ
- etc

まつの文庫 本棚からのピックアップ



美しいこと
赤木明登・著
小泉佳春・写真

塗師(ぬし)としての日々の中、15人の「ものを作る人々」との対話を通して紡ぎだした「美しいこと」についての思索の書です。



武井武雄
思い出の名作絵本
武井武雄・著

店主・善五郎も子供の頃からの大ファン。武井武雄の描く世界は、見るたびに新しい発見があります。いつもいつも「うーん」と唸る1冊です。



ひとりよがりのものさし
坂田和實・著
筒口直弘・写真

「古道具坂田」主人である著者の「磨かれた目」が見つける、なにげないものたちの持つ、「ゆるぎない美しさ」を、しっかり堪能できる本です。



つくるひと—その暮らし
赤沢かおり・編

ものをつくるひとたちの暮らしの中にある「考え方」をおしえてくれます。好きなものを知る、少しずつでも続けること、など。身近で大切な基本をあらためて感じます。

オーダーで「炉のあるテーブル」をお作りしました。 中野市●縦の木山荘さま

飯山市と中野市の境、少し高台の見晴らしのいい家に、その「炉のあるテーブル」は到着しました。陽射しと薪ストーブ、イタリア製テラコッタ敷きのリビング。なんて贅沢で居心地のようさそうな場所なのでしょう。納品を待つ間お店に置かれていたときにも、ご来店のお客さまの注目を集めていた存在感あるテーブル。これからどんなふうに使ってもらえるのが楽しみです。

写真右●見晴らしがよくて、後ろには森。とても素敵なロケーションです。写真下●テラコッタの床と薪ストーブ(なんとイタリアの手書き絵付けが美しい陶器製!)ヨーロッパでの暮らしや、旅する毎に物を選ぶ目を養ってきた様子がうかがえます。中央に置かれたテーブル、真ん中の蓋の下に炉が切っております。



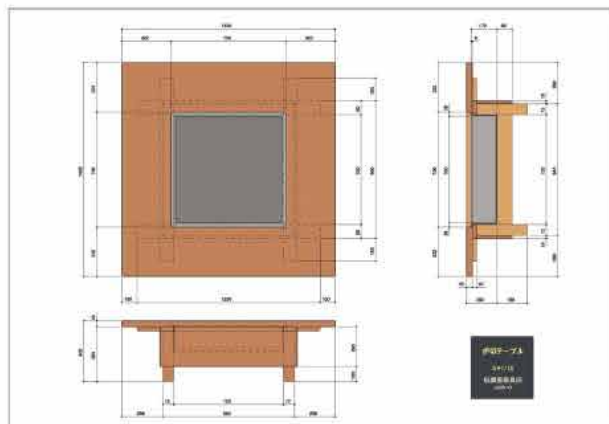
●テーブルは、長い間善光寺大門町の蔵を支えてきた赤松の古材を再利用しました。和の「凛とした緊張感」が「美しい」と、表現してくださいました。

松葉屋家具店

〒380-0841 長野市大門町45
since1833@matubaya-kagu.com
TEL 026-232-2346
FAX 026-237-4558

(木曜定休)

©松葉屋家具店+くらし道具学研究所
Copyright ©2010 Matubayakaguten Co., Ltd.
All rights reserved.
Design&Text * kai+pan



納品日記...③